

シラバス参照

授業科目名	知的障害児の心理・生理・病理
単位数	2
授業形態	講義
講義コード	5653
授業担当者氏名	新井豊吉(アライ トヨキチ) 福水道郎(フクミズ ミチオ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	1. 知的障害の概念・定義について説明できる。(DP2) 2. 知的障害の生理・病理の基礎を列挙できる。(DP2) 3. 知的障害児の心理的特性を説明できる。(DP2・4) 4. 知的障害児の心理臨床の基礎を述べることができる。(DP4・9)																								
授業概要	知的障害の概念・定義、発生原因となる疾患、それに伴う症状、合併症について、知的障害児の生理・病理の基礎を習得する。軽度・中等度・重度、最重度、および境界領域それぞれの段階に応じた特徴、乳幼児健診、超早期からの療育、家族支援の関わり方について理解する。知的障害児への支援に必要な心理学の基礎を理解し、典型的な発達と知的障害の発達の違いを理解し、認知発達、心理・教育アセスメント、行動問題への対応、超早期段階からの教育的支援と家族支援について学ぶ。																								
科目ナンバリング	1-KKO-2-N09-2-2																								
科目ナンバリングについて	科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。 1 - AAA - 1 - A01 - 1 - 1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等) (3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年 (6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分) 詳細は下記をご覧ください。																								
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html																								
授業の特徴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特徴</th> <th>該当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B: 課題解決型(PBL)連携なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C: 討議(ディスカッション、ディベート等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>D: グループワーク</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>E: プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>F: 実習、フィールドワーク</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>I: 反転授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>J: 外国語のみで行われる授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	特徴	該当	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		B: 課題解決型(PBL)連携なし		C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○	D: グループワーク	○	E: プレゼンテーション		F: 実習、フィールドワーク	○	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○	I: 反転授業		J: 外国語のみで行われる授業		K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業	
特徴	該当																								
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり																									
B: 課題解決型(PBL)連携なし																									
C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○																								
D: グループワーク	○																								
E: プレゼンテーション																									
F: 実習、フィールドワーク	○																								
G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)																									
H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○																								
I: 反転授業																									
J: 外国語のみで行われる授業																									
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業																									
実施形態	対面授業科目																								
実施形態について	※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目: 授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目: 上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。																								
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>知的障害の概念・定義・分類(福水道郎)</td> </tr> </table>	第1回	知的障害の概念・定義・分類(福水道郎)																						
第1回	知的障害の概念・定義・分類(福水道郎)																								

	第2回	知的障害の生理・病理(福水道郎)
	第3回	知的障害の症状(福水道郎)
	第4回	知的障害の合併疾患・大脳機能障害症候群(福水道郎)
	第5回	障害の程度からみた心理・身体的特性(福水道郎)
	第6回	乳幼児健診における早期発見、関連機関との連携(福水道郎)
	第7回	知的障害の認知、記憶、学習と動機づけ(新井豊吉)
	第8回	知的障害の言語・コミュニケーション(新井豊吉)
	第9回	知的障害児の心理・教育アセスメント(新井豊吉)
	第10回	アセスメントに基づく教育的診断(新井豊吉)
	第11回	超早期からの教育的支援と家庭支援(新井豊吉)
	第12回	フィールドワーク: かせいの森のおうち放課後等ディサービス「つくし」での音楽等の集団指導の経験(新井豊吉)
	第13回	フィールドワーク: かせいの森のおうち放課後等ディサービス「つくし」での図工等の個別指導の経験(新井豊吉)
	第14回	授業のまとめ(新井豊吉)
授業外学修 予習(事前学修)	各授業 [平均 100分]	講義テーマについて、テキストや配布資料等で予習しておくこと
授業外学修 復習(事後学修)	各授業 [平均 100分]	講義ごとに、要点をA4版1枚程度に文章で整理すること
評価方法	最終レポート60%、ミニレポート30%、授業態度10%、60%以上を合格とする。	
教科書等	テーマに沿った資料を適宜配布する	
課題に対するフ ィードバックの 方法	必要に応じて解説する。	
その他	オムニバス形式	
授業担当者の 実務経験の有 無	実務経験あり	
「授業担当者の 実務経験の内 容」および「実 務経験を活か した授業内容」	医師(福水)、公認心理師・特別支援学校教職等(新井)の経験を生かして、基礎的情報に加え、支援を必要とする子どもの特性を踏まえ具体的な講義を展開する。	
ファイル		